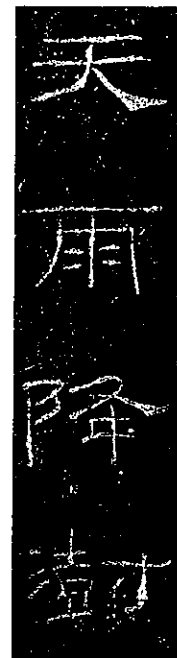
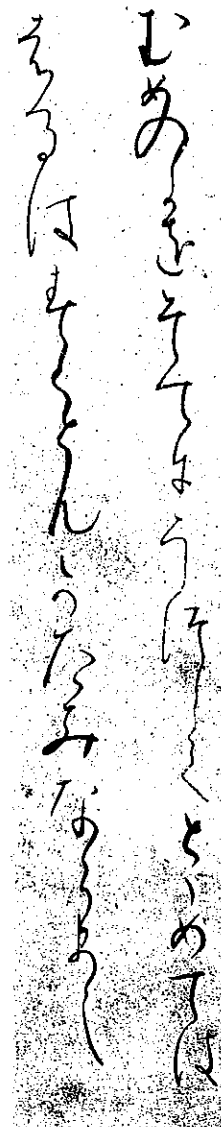


○隸書（礼器碑）・・・天雨降澍



○仮名（高野切第一種）・・・

むめのかをそでにうつしてとどめてば
はるはすぐともかたみならまし



（注意事項）

- 1 提出は決められた半紙で行うこと。
- 2 提出半紙以外の練習は、時間内に自由に行ってもよい。
- 3 受験番号・氏名は、提出作品の右下に鉛筆で横に書くこと。



▲全学部・全学科▼

（六〇分）

第一問

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

家族の問題というのは、とてもむずかしい。そこで生じるさまざまな問題を解決するのがむずかしいだけでなく、問題として設定するその仕方じたいがむずかしい。

言語とならんで、家族の問題は、途方もなくむずかしい。それは、それぞれ世界のなりたち、社会のなりたちのコンカン^①にかかわる問題だからである。自然と文化というものの蝶番^②になる問題だからと言っていい。あるいは、制度が生まれるところだからと言っていい。

人間は言葉を話すということ、シンボルを操るということ、そこに人間と他の動物との差異を見いだす考え方は、歴史が古い。文化は言葉によって担われるのであって、物や人が、あるいは出来事が、いまここという経験の場所を超えて、「世界」と「歴史」をかたちづくることになるのは、言葉の力に負う。

わたしたちはそういう(世界)と(歴史)のなかに生きるのであって、突然に痛みに襲われて声をあげるときにも、わたしたちは「ぎゃあ」とは言わずに「痛い」と言う。そういうふうに、わたしたちの X である身体(このばあいら口を中心とする発声装置)は、Y によって編み込まれるのである。

性交、受胎、出産、保育といった生きものとしての基本のいとなみも、人間においては家族という持続的な装置のなかでなされる。性はわたしたちの社会では制度化されてきたのであって、結婚、養子縁組、相続といったかたちで社会のなかのベーシックな装置として機能してきた。

また近年、光をあてられてきたことだが、人間はケアする動物であるとする考え方があつた。子どもが成長するまで、親が子どもの面倒をみるというのは他の動物にも見られるが、成長しても面倒をみる、あるいは逆に年少の者が年長の者の世話をするというのは、人間という生きものに固有の習性だという見方である。

家族の形態は人類史のなかでもきわめて多様である。二十世紀後半の社会に特徴的だったのは、核家族という形態である。近代という時代は、家事というかたちで家族のメンバー(圧倒的に女性)に負わされてきた家族の機能を、家庭外のサービス機関に委託するケイコウを推し進めた。排泄物処理、調理、セクタクから医療、保育、介護、冠婚葬祭まで、メンバーの生命機能にじかにかかわる世話を、金銭をもって外部に委ねるようになった。

そのことで家族は、家庭という、文字どおり身体空間を深く交わらせるような私的な「愛情」と「親密さ」の場所に変わったのである。が、そういう観点によって支えられた家族というものが、いかに脆いもの、壊れやすいものであるかは、戦後社会を生きたわたしたちによって身に沁みだ痛い事実である。

他方、家族というかたちでしかありえないか否かは別として、人間にとって他者との親密な関係というものはその存在に深くかわる意味をもっている。とくに、子どもと高齢者という、ともに依存性の高い存在にとって、親密な他者の存在は大きな意味をもつ。

子どもは、ただ生まれてそこにいるというだけで、何の条件もつけずに世話をされた。食べさせてもらい、からだを洗われ、寝つかせてもらい、排泄の世話もしてもらえた。その証拠としていまじぶんがここにいる。そのことが大きくなっても、どんなにひとに裏切られても、人間に対する最後の信頼をすぐには失わない理由になっている。

死も、この親密さに深くかわる問題だ。いまの医療制度のなかでは、死は、延命治療を至上命令とする医師たちと、安楽死という「自己決定」の自由をもとめる患者とのあいだでユレ動いていて、だれに看取られつつ死ぬかということの重要性が見えにくくなっているが、だれに見守られつつ死ぬかというのは、人間にとって決定的な問題であろう。

高齢者と子ども、そういう依存性の高い存在たちが、一昔前まで、たがいに「いりり端やふとのなかで」(井上ひさし)結びついて、そのあいだで生産ということに骨折っている大人たちとは別の文化をかたちづつていた。そしてそういう価値のコントラストが、ひとの幸福という観念を分厚くし、結果として社会に活力をあたえていた。そういう文化そのものが、いま家族の変容のなかで消えつつある。

だれもが家族を懐陶しくおもい、そこから自由になりたいとおもうと同時に、他者との親密な関係というものにひどく渴いてもいる。だれかに「あなたの代わりはいない」と言われたいと願っている。個人の自立と依存、どちらを欠いてもわたしたちは生きてゆけない。親密な関係というものをどういうかたちで個人の人生のなかに、あるいは社会のなかに設定しなおすのか。その細かな見取り図を、いまわたしたちは必要としている。

(鷲田清一「想像のレッスン」による)

問一 二重傍線部①・②の本文中での意味として最も適切なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① 蝶番
- ① それぞれが成立する点
- ② 二つの事象のつなぎ目
- ③ それぞれの特徴の違い
- ④ 二つの物事の類似点

- ② 固有の
- | | |
|---|---------------|
| ① | 堅苦しく融通が利かない |
| ② | いつのまにか身について |
| ③ | 強く支配されて逃れられない |
| ④ | そのものだけが持っている |

問一 空欄 X・Y に入れるのに最も適切な語句の組み合わせを、次の①～⑥の中から一つ選びなさい。

3

- | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|---|----|---|----|
| ① | X | 言葉 | Y | 場所 | ② | X | 言葉 | Y | 生命 |
| ③ | X | 社会 | Y | 場所 | ④ | X | 社会 | Y | 言葉 |
| ⑤ | X | 自然 | Y | 生命 | ⑥ | X | 自然 | Y | 言葉 |

問二 傍線部 a「家族は、家庭という、文字どおり身体空間を深く交わらせるような私的な「愛情」と「親密さ」の場所に変わったのである。」とあるが、

その具体的な経緯はどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

4

① 家族のかたちは人類の歴史のなかでさまざまに変化してきたが、家族のメンバーが家族以外の人々に頼らずにたがいに面倒を見るという点は、核家族という形態が特徴的となった二十世紀後半に至ってもほとんど変化しなかった。

② 近代以前においては、家族の生死にかかわる世話が家事というかたちで女性にはかり押し付けられていたが、近代以降ではそのような負担が性

別にかかわりなく、核家族のメンバー全員に割り振られるという特徴が生じた。

③ 近代以前には、家族の生命にかかわる世話は、女性を中心とする同じ家族のメンバーによって担われていたが、近代になるとその機能が家族の外に委ねられるようになり、二十世紀後半には核家族という形態が典型的なものとなった。

④ かつては家族同士で生命機能にかかわる世話をしあう習慣が広く行きわたっていたが、戦後社会においてはそのような家族のかたちが壊れてしまい、金銭のみによつて結びついた核家族が急激に増加するという問題が表面化した。

問三 傍線部 b「人間にとって他者との親密な関係というものはその存在に深くかかわる意味をもっている。」とあるが筆者が考える「他者との親密な関係」とはどのようなものか。その具体的な例としてふさわしくないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

5

- ① 子どもとその世話をする親との関係。
- ② 高齢者とその死を看取る人間との関係。
- ③ 患者とその延命治療を至上命令とする医師との関係。
- ④ 年長者とそのケアをする年少者との関係。

問四 傍線部 c「コントラスト」とあるが、ここで対比されている対象は具体的にはどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の①～④

の中から一つ選びなさい。

6

- ① 家族への依存性が高く介護を必要とする高齢者と、その介護を担う家庭外のサービス機関。
- ② 家族の構成員が家事を負担していた近代以前の社会と、家事を外部へ委託はじめた近代の社会。
- ③ 現在の医療制度のなかで延命治療を至上命令とする医師たちと、安楽死の自由をもとめる患者。
- ④ 生産に重きを置く大人たちと、家族に対する依存性の高い高齢者や子どもたち。

問六 傍線部(1)～(5)のカタカナを漢字に直して、記述問題解答用紙に記しなさい。

問七 傍線部d「その細心な見取り図を、いまわたしたちは必要としている。」とあるが、それは具体的にはどのようなことか。それを説明した次の文の空欄Ⅰ・Ⅱに当てはまる最も適切な語句を、それぞれ指定の字数で本文中から抜き出し、記述問題解答用紙に記しなさい。

人生や社会において、家族から自由になりたいというおもいに代表されるような 空欄Ⅰ（五字） への希求を尊重しながら、たがいに「あなたの代わりはない」と言い合えるような 空欄Ⅱ（九字） を設定しなおすべきだということ。

※下書き用解答欄

Ⅰ
5

Ⅱ
9

第 二 問

以下の言葉に関する設問に答えなさい。

問一 次の(1)～(5)の漢字の読みを、ひらがな・現代かなづかいで記述問題解答用紙に記しなさい。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) 梗概 | (2) 蜂起 | (3) 陶冶 | (4) 豊稔 | (5) 辣腕 |
|--------|--------|--------|--------|--------|

問二 次の(1)～(5)の四字熟語について、()内の意味を参考に、傍線部のカタカナをそれぞれ漢字に直して記述問題解答用紙に記しなさい。

- (1) 二律ハ^レイ反（対立する二つの命題が、同等の妥当性をもって主張されること）
- (2) 千載一^レグウ（めったにないよい機会にめぐりあうということ）

問三

次の(1)～(5)の文の意味に最も合致する慣用句を、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | |
|--|---|
| (1) 立場やなすべきことを忘れるほど、何かに夢中になること。 | ⑦ |
| (2) 言いまわいがいや言葉じりをとらえて非難したり、からかったりすること。 | ⑧ |
| (3) 得意になり、うぬばれること。 | ⑨ |
| (4) 物事に対する欲望や興味が生じること。 | ⑩ |
| (5) 心が広く包容力があること。 | ⑪ |

- (3) 栄枯盛衰(盛んなときもあれば、勢いをなくすときもあるということ)
 (4) 孤立無援(ひとりぼっちで助けが来ないということ)
 (5) 不工キ流行(変化することのないものと、変化してやまないもの)

問四

次の(1)～(5)の文の意味に最も合致することわざを、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| (1) たとえ良いものであっても、度を超すとかえって害になること。 | ⑫ |
| (2) 小さく弱い者にも、相応の意地や考えがあること。 | ⑬ |
| (3) あることが原因となって、その影響が意外なところに及ぶこと。 | ⑭ |
| (4) どちらもすぐれていて、選択に迷うこと。 | ⑮ |
| (5) 中途半端で役に立たないこと。 | ⑯ |

- | | | |
|--------------------|----------------|-------------------------|
| ① 一寸の虫にも五分の魂 | ② 提灯に釣り鐘 | ③ 饕餮(たうてい)う虫も好き好き |
| ④ 薬も過ぎれば毒となる | ⑤ 良薬は口に苦し | ⑥ いずれ菖蒲(あやむ)か杜若(かすね) |
| ⑦ 風が吹けば桶屋(けづや)が儲かる | ⑧ 帯に短し褌(こず)に長し | ⑨ 栴檀(せんとだん)は双葉(ふたば)より芳し |
| ⑩ 背に腹はかえられぬ | | |

問五

次の(1)～(5)の文について、傍線部「れる」の文法的説明として適切なものを、後の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | |
|----------------------------------|---|
| (1) 昔のことがしみじみと思 <u>い出される</u> 。 | ① |
| (2) 新しいアイデアがど <u>んと</u> 生まれる。 | ② |
| (3) 先生は午後の早い便で出 <u>発される</u> そうだ。 | ③ |

復元力を超えるようなかく乱を受けると、そのバランスが大きく崩れてしまうことがある。日本のある湖では、富栄養化による植物プランクトンの増加や、それに伴う湖水の透明度の低下などが問題となり、富栄養化を防ぐ条例が制定された。しかし、(c) 近年、この湖における在来魚の漁獲量は減少傾向にあり、その対応が検討されている。

問3 下線部(a)について、かく乱による生態系への影響についての記述として適当でないものを、次の①～④の中から1つ選びなさい。 23

- ① 河川の増水の影響をまれに受ける場所では、水没などに耐えられる植物と光合成速度の大きい植物の両方が共存できる。
- ② 里山の雑木林では、定期的な樹木の伐採などにより陽生植物の継続的な生育が可能となっている。
- ③ 生息する生物の種類が多く、複雑な食物網をもつ生態系は、生物の種類が少なく、単純な食物網をもつ生態系よりもかく乱の影響を受けやすい。
- ④ ギャップが生じることで、極相樹種だけでなく先駆樹種がモザイク状に混じって森林が維持されている。

問4 下線部(b)について、河川や湖沼に汚濁物質が流入した場合、沈殿や希釈、微生物などはたらくことによって汚濁物質は減少していく。このはたらくとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から1つ選びなさい。 24

- ① 温室効果
- ② 生物濃縮
- ③ アオコ(水の華)
- ④ 赤潮
- ⑤ 自然浄化

問5 下線部(c)について、富栄養化を防ぐ取り組みによって在来魚の漁獲量が減少している理由についての考察として最も適当なものを、次の①～④の中から1つ選びなさい。 25

- ① 湖水温度の上昇により、在来魚のからだのサイズが大きくなったから。
- ② 栄養塩類の流入が大幅に減少したことにより、動物プランクトンが減少したから。
- ③ 護岸工事の計画が中止となり、在来魚の棲みかが増加したから。
- ④ 湖水を一時的に抜いて、外来魚の駆除を徹底的に行ったから。

- | | | | |
|--------------|-------------|----------|---------------------------|
| ⑦ 上二段活用動詞の一部 | ④ 尊敬の助動詞 | ① 受身の助動詞 | (5) 新米がおいしくて、いくらでも食べられる。 |
| ⑧ 下二段活用動詞の一部 | ⑤ 使役の助動詞の一部 | ② 自発の助動詞 | (4) 彼女はクラスの人々から一目置かれる存在だ。 |

- | | |
|-------------|-------------|
| ⑥ 五段活用動詞の一部 | ③ 可能の助動詞の一部 |
|-------------|-------------|

21 20